

令和 7 年 7 月 27 日

町民と議員のタウンミーティング in 赤羽区 開催報告

報告者 津谷 彰

開催日時 令和 7 年 7 月 26 日 午後 5 時

場所 赤羽コミュニティセンター

出席議員 12 名 赤羽区参加者 23 名



【概要】

赤羽区長より、区の現状について説明がありました。赤羽区の総人口は 1,259 人(前年比-34 人)、65 歳以上が 40%、75 歳以上の敬老会対象者は 360 名(28.6%)で昨年より 23 名増加しています。区は 8 つの常会で構成され、役員は 19 名で多様な背景を持つメンバーで運営されています。区費は辰野町 24 区の中で下から 4 番目に少なく、予算も限られています。

区長からは防災マップの作成や地滑り対策、荒神山の町営団地の空き家問題、公園の環境整備、避難所開設キットの支給、朝日美術館の整備などの課題が提起されました。前区長赤羽氏からは町の将来像の不明確さ、議員活動の見えにくさ、予算作成への区長会参加の必要性などについて意見が出されました。

住民からは病院の医師不足問題、消防団の出動体制、焼却炉からの煙による住環境問題、エネルギー政策、道路整備計画、学校統廃合問題など多岐にわたる質問や意見が出されました。

議員側からは病院経営の現状と課題、消防団の人員不足の実情、道の駅構想などについて説明がありました。特に辰野病院については、外科の常勤医不在など医師不足の問題と、年間約 4 億円の赤字補填の財政問題が議論されました。議長からは医師確保の困難さと、赤字補填には国からの地方交付税が充てられている点が説明されました。学校統廃合については、少子化に伴う検討が進められており、住民からは地域や子どもの声をしっかり聞いて進めるべきとの意見が出されました。最後に区長から、このようなタウンミーティングの意義と、年に複数回の開催希望が述べられ、議長からも継続的な対話の場の重要性が確認されました。議会側からは、辰野町の強みを活かした町づくりの必要性が強調されました。

【詳細】

・区長挨拶

赤羽区長より、区の現状について説明し、総人口 1,259 人(前年比-34 人)、65 歳以上が 40%、敬老会対象者(75 歳以上)が 360 名(28.6%)で昨年より 23 名増加していることを報告しました。区は 8 つの町会と 1 つの行政区で構成され、

役員 19 名で運営されており、区費は辰野町17区中下から 4 番目に少ないことが説明されました。また、防災マップの作成や地滑り対策、町営団地の空き家問題、公園の環境整備、避難所開設キットの支給、朝日美術館の整備などの課題が提起されました。

・前区長からの意見提起

前区長からの意見書の提出(欠席)。内容は①町の将来像の不明確さ(第 6 次総合計画のキャッチフレーズ「1 人 1 人の活躍が作り出す住み続けたいまち」が具体的にイメージできない)、②箕輪町と比較した辰野町の道路整備の遅れ、③辰野町をベッドタウンやアミューズメントパークにする提案、④町長の外部会議出席の多さへの懸念、⑤議員活動の見えにくさ(公約の実施状況や実績が見えない)、⑥議会の一般質問の形骸化、⑦議員の実績表の新設提案、⑧予算作成に区長会が参加する必要性などでした。

・議員活動の見える化についての議論

舟橋議長からは、町の方向性について、リーダーの示す方向性の重要性を指摘し、活気ある町には強い信念を持ったリーダーがいると述べました。また、向山議員は議員活動について、板沢最終処分場問題に取り組んできたことを例に挙げ、具体的な公約というより「こういう町にしていきたい」という方向性を示していると説明しました。吉沢議員は「町民の声を町政に届ける」「物価高から暮らしを守る」を公約とし、議会報告の発行や水道料金値上げ抑制の提案などに取り組んでいると述べました。栗林議員は少子化対策を重視し、一般質問で継続的に取り上げていると説明しました。

・住民からの質問:学校統廃合について

瀬戸氏から小中学校のあり方検討委員会について質問がありました。小学校3校が一つになる可能性があるなか、住民の声をしっかり聞いて進めてほしいという要望と、議会としてどのように住民の声を聞いていくのかという質問がありました。小林議員は検討委員会の経過を説明し、子どもや保護者の意見を聞く機会が今後あると述べました。松澤議員は福祉教育常任委員会として勉強を重ね、委員会代表が検討委員会に参加していると説明しました。小澤議員は多くの人の意見を聞くことの重要性を指摘し、提言作成の可能性に言及しました。

・住民からの質問:企業の焼却炉問題

中山氏から近隣企業の焼却炉から出る煙と臭いについての苦情が出されました。津谷議員は調査結果を報告し、令和 2 年から問題になっており、令和 4 年 9 月に町と県の職員が立ち合いで確認したこと、黒い煙が出る原因として低温焼却、パッキンの劣化、追加投入などの可能性があることを説明しました。黒い煙が出た際には写真を撮るなどして報告してほしいと要請し、今後も調査を続けるとしました。

・住民からの質問:病院と消防について

有賀氏から辰野病院の医師不足と消防団の出動体制について質問がありました。舟橋議長は病院について、外科の常勤医不在など医師不足の現状を説明し、全国的な医師不足と経営難の問題を指摘しました。古村議員は消防について、赤羽区では近年火災がないことを評価しつつ、消防団員の多くが町外勤務で昼間の出動が難しい現状を説明しました。また消防署の車が後から来るのは火災原因調査などの役割があるためと説明しました。区長からは病院の赤字補填についての質問があり、議長は年間約 4 億円の赤字に対し、地方交付税から相当額が充てられていることを説明しました。

・住民からの提案:エネルギー政策について

小山氏からエネルギー関連の予算と対策の必要性について提案がありました。辰野町は産業の町であり、産業復活にはエネルギーが必要だと指摘し、ゴミ処理と発電を組み合わせた SOP システムの導入を提案しました。向山議員はゴミ焼却場の集約化の経緯を説明し、ダイオキシン問題から 24 時間燃焼が必要とされていることを説明しました。エネルギー確保の重要性は認識しつつ、今後の研究課題としたいと述べました。

・住民からの提案:道路整備と将来ビジョン

小松氏から道路整備計画と学校統廃合、将来の合併問題について提案がありました。国道工事が進む中、次の課題として箕輪バイパスについて、伊那谷断層を考慮した新たなルート案(新町北側から荒神山へ、平出を通り王城山方面へ)を提案しました。また岡谷から辰野への新たな道路として、平らな山道を活用する案も提示しました。学校問題については、子供の減少を待つのではなく早期に統合を進めるべきと主張し、50 年後には人口半減で合併が必要になるとの見通しを示しました。津谷議員はこれらの提案を今後の研究課題としたいと述べました。

・防災無線の聞こえにくさについて

酒井氏から防災無線が聞こえにくいという指摘がありました。古村議員は町内各所から同様の声が寄せられていることを認めつつ、単にスピーカーを増やすと声が重なって逆に聞こえにくくなる問題があると説明しました。長野県内では富士町が防災無線をやめて個人端末に情報が届く方式に変更した例を紹介し、辰野町でも新たな情報伝達手段を構築中であると説明しました。

【閉会にあたり】

磯村区長は、タウンミーティングが議員と区民の課題共有の良い場であると評価し、年2回の開催希望を述べました。また区長と議員の連携強化の必要性にも言及しました。舟橋議長は、各区でのタウンミーティング開催により多くの町民と対話できたことの意義を強調し、辰野町の強みを活かした町づくりの重要性を述べました。

以上